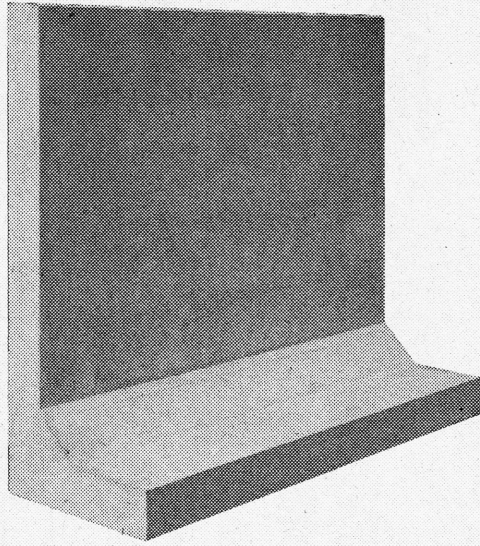


一体型耐震ブロック塀

コンクリート
ライセンス機構
施工ノウハウ販売

【大分】コンクリート分市、池永征司社長、
トライセンス機構(大) 050・5213・4



プロ販売する
ブロック塀「塀のねっこ」

570)は、一体型耐震コンクリートブロック塀のライセンス販売に乗り出した。同社が考案した塀の製造と施工のノウハウをコンクリートメーカーなどへ提供する。当面は西日本地区を中心に官庁や学校向けとして普及を目指す。

「塀のねっこ」と名付けたブロック塀は、L字型で構造体の中に一つの鉄筋を通して、底辺は600ミリ以上の長さがあり、地表から30センチ以上の深さまで埋め込むことにより、安定した施工を実現する。

「塀のねっこ」と名付けたブロック塀は、L字型で構造体の中に一つの鉄筋を通して、底辺は600ミリ以上の長さがあり、地表から30センチ以上の深さまで埋め込むことにより、安定した施工を実現する。

今後、大学などと共同実験し、得たデータを基に第三者機関からの性能認証を取得できるように計画している。3年間で100社へのライセンス供与を目標に掲げた。

既存のブロック塀は老朽化や施工品質のばらつきが課題とされている。6月の大阪府北部地震の際には小学校のブロック塀が倒れ、小学生が亡くなる事故が発生した。

池永社長は「倒れないうえには基礎部分分が大事。全国でネットワークを広げて普及を進めたい」と話している。

**抽選で
豪華商品を
プレゼント!**

第29回 読者が選ぶ ネーミング大賞

Naming award

あなたがベストネーミングと思われる商品・サービスに投票を!

投票開始のお知らせ

日刊工業新聞社は、第29回読者が選ぶ「ネーミング大賞」の投票を開始しました。2017年秋から18年秋にかけてヒットし、話題となった商品・サービスの中から、耳に残る優れたネーミングを選んでください。「生活部門」と「ビジネス部門」があります。奮って投票してください。

ビジネス部門

ノミネート一覧

生活部門

ネーミング	内容	企業名	ネーミング	内容	企業名
一網打尽	店舗天井に設置し強盗を抑制する防犯装置	岩田鉄工所	OKOSTA(オコスタ)	お好み焼き体験スタジオ	オタフクホールディングス
wemo(ウェモ)	現場ワーカー向けウェアラブルメモ	コスモテック	奏 KaNaDe	楽器・オーディオ音質向上用複合材料	金井製作所
カルテMan・Go!	病院向け電子カルテシステム	コア・クリエイトシステム	かみしも どーる (kamishimo doll)	現代に甦った江戸祓雛	岩槻人形協同組合
SAXES(サクセス)	大規模生産者向け高耐久乾燥機・粉摺機	サタケ	サッポロ り・ら・く・す	フルーツピネガーのチューハイ	サッポロホールディングス
SUN SUN まさお SUN	太陽光発電所専用の乗用草刈機四輪駆動車	筑水キャニコム	ジャスト	“ぴったり”な保障が提供できる保険	第一生命保険
シアガール	玉ねぎ葉根同時切断機	田中工機	スモーキングモンスター	受動喫煙をシミュレーションする学習教材	三幸製作所
生産性見え太君	スマートフォンを利用した情報収集装置	武州工業	DA CAPO	敏感肌向け化粧品	北海道曹達
TIME CREATOR (タイムクリエイター)	働く時間を見える化するソフトウェア	富士通エフサス	TEKARI SARARI	ハンカチタイプのあぶらとりクロス	東レ
トリケラ<Tricera>	木材伐倒枝払い装置 ハーベスタ	松本システムエンジニアリング	トップ ハレタ	超コンパクト衣料用液体洗剤	ライオン
パレード(パレード20フロアブル/パレード15フロアブル)	野菜/果樹用殺菌剤	日本農業	だい杖ぶ	生活習慣病などに備える保険	日本生命保険
PiPiTORO	まぐろ脂肪含量測定装置	相馬光学	ふわっふわっマスク	シルクの潤いでお肌と健康を守るマスク	イツハラ産業
塀のねっこ	L形基礎一体型 耐震モノブロック塀	コンクリートライゼンス機構	best pot (ベストポット)	土と金属のハイブリット鍋	中村製作所
Mighty・Mild (マイティ・マイルド)	脆性部品・精密部品向けの高速研磨機	チップトン	本麒麟	新ジャンル(ビール類)	麒麟ビール
ミラクルLight	普通免許で運転できる消防ポンプ自動車	モリタホールディングス	檸檬堂	レモンサワー	日本コカ・コーラ
らくらくケーブルシステム	低圧アルミ導体 CV ケーブル	古河電気工業			

Present

ご希望のプレゼント番号を1点のみ、お選びください。 []内は提供企業

投票者の中から抽選で計**59**名様にプレゼント!



1 「ホテルグランドパレス食事券」
(ペア2万円相当)
[ホテルグランドパレス]

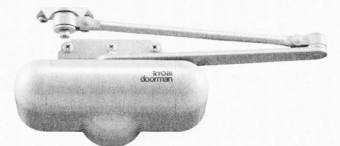
2 名様



2 **1** 名様
撮った写真をスマホへ自動転送、水深10mまでの防水性能と1.8mの耐衝撃性能を実現した親子で楽しめるタフカメラ「COOLPIX W100」[ニコン]

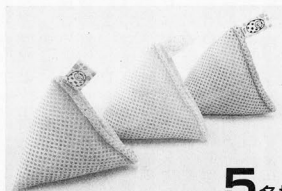


3 **1** 名様
長く使えるベーシックなデザインで、アクセサリと合わせやすい新モデル「シチズンクロスシー」
[シチズン時計]



4 **10** 名様
ドアマン ドアクローザ S-101PV
[リョービ]

CATTEM
株式会社キャステム



6 **5** 名様
合成洗剤を使わずに高純度のマグネシウムで洗う、身体にも環境にもやさしい洗濯用品「洗たくベビーマグちゃん」
[宮本製作所]



7 **10** 名様
従来製品比170%の水分率にすることで肌の潤いを逃しにくくしたティッシュ「エリエール+Water(プラスウォーター)」(180組×5箱)
[大王製紙]



8 **10** 名様
「全国共通図書カード」
(2,000円分)
[日刊工業新聞社]

5 **20** 名様

キャステムのMIM製法による超微細なノギストラップ
①実物同様に動くミニミニノギス
②外寸と内寸が30mmまで測定できるノギス(大)
[キャステム]



■ご投票はこちらから

<https://corp.nikkan.co.jp/p/honoring/namingtaishou>



投票要項

※ご記入いただいた個人情報(日刊工業新聞社)が適切に管理し、商品の抽選及び発送のみに使用いたします。

「これは!」と思われるネーミングを生活部門とビジネス部門から一つずつ選び、必要事項をご記入いただき、投票してください。プレゼント抽選の結果は、商品の発送をもって代えさせていただきます。商品の発送は2019年3月を予定しています。

募集締切 2019年1月15日(火)

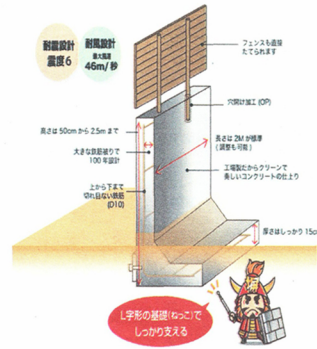
■ネーミング大賞の発表(予定) ○日刊工業新聞[2019年3月上旬の紙面] ○メトロガイド4月号[2019年3月4日(月)発行号を予定] ○日刊工業新聞社ウェブサイト[2019年3月上旬掲載]

■お問い合わせ 日刊工業新聞社 ネーミング大賞事務局 ☎03-5644-7303



池永征司社長

コンクリートライセンス機構(東京都港区)が開発した耐震コンクリート塀「塀のねっこ」が注目を集めている。9月に販売を開始し、初年度1



▲「塀のねっこ」の構造。倒れにくく施工しやすいので、さまざまなシーンで活用できる

「塀のねっこ」の特徴は、基礎と塀を工場ですべて成型した一体型に、上部に穴を開けてフェンスを設置することもでき、自由度が高い。完成した状態で工場から出荷されるため、

200本の販売を目指す。

秒速46mの風にも耐えられる設計となっている。厚さは15cmあり、衝撃にも強い。塀の高さは20cmから2.2mまで選べるうえ、上部に穴を開けてフェンスを設置することもでき、自由度が高い。

販売目標は初年度1200本

コンクリート
ライセンス機構

「倒れない塀」にリフォーム

総合ニュース

現場では据え付け作業のみとなり、職人いらずで工期も短くて済む。地上部分の高さ2m、長さ2mのもので7万9000円。一般的な戸建て住宅に施工した場合、費用は50万~100万円程度になる。

また、同社では、既存のブロック塀のセルフ診断サービス「ブロック塀ドクター・Hey」も提供している。ユーザーがスマホで撮影した画像とチェックシートを元に診断するものから、鉄筋探査機などを用いた本格的なものまで、メニューは3種類を用意。機器のレンタルもセットになっており、費用は1000~7400円。

「大阪地震以降、ブロック塀の危険性が注目を集めるようになりました。加えて、建物への浸水対策にも使えるので、『塀のねっこ』は幅広い防災ニーズに応えられるはず。診断サービスとあわせて提供していくことで、危険な塀を世の中からなくしていきたい」(池永征司社長)

週刊ブロック通信

コンクリート
製品の業界紙
週刊ブロック通信

購読、広告の
お申し込みは

TEL 03-3431-2811
FAX 03-3578-3450
kjp@msj.biglobe.ne.jp

(株) 公共事業通信社

発行所 公共事業通信社 東京都港区新橋6-22-6 JOYOビル7F 電話 03(3431)2811(代)
編集発行人 黒澤隆寿 購読料1カ年39,000円+税 前納 毎週月曜日発行 FAX 03(3578)3450

(3) 第3015号

(第三種郵便物認可)

週刊ブロック通信

平成30年11月26日

(月)



ブロック塀をP Ca化 新製品塀のねっこ開発

コンクリート
ライセンス機構

コンクリートライセンス機構
(本社、東京都港区西新橋二丁目一三、社長池永征司氏)は耐震モノブロック塀「塀のねっこ」を開発し、ライセンス販売を開始した。同社が考案した塀の製造と施工ノウハウをコンクリート製品企業等へ提供する計画で、当面は西日本地区を中心に官庁や学校向けとして普及を目指す。

塀のねっこは、L型形状の基礎

一体型で震度6、風速46m/秒に耐えられる設計。空洞ブロックを積み上げる従来のブロック塀とは異なり、コンクリートブロック塀を工場で単体プレキャスト化、塀部分とL字型の基礎底板部が一体化して倒壊を防ぐ。

上部にフェンスが設置でき、塀の高さは600mmから2000mmまで200mmピッチで6タイプを揃えた(フェンスを含めた最大地表高さ2200mmまで)。

底板幅はサイズに応じて600mmから900mmとし、地表から30cm以上の深さまで埋め込んで安定した施工を実現する。

耐震モノブロック塀「塀のねっこ」

既存のブロック塀は老朽化や施工品質のばらつきが課題となっており、6月の大阪府北部地震では小学校のブロック塀が倒れ、小学生が亡くなる事故が発生した。池永征司社長は「ブロック塀の構造的な弱点は基礎、鉄筋、劣化にあり、プレキャスト化で殆どが解決する。倒れない塀のためには基礎部分が大事で、塀のねっこと名付けた。全国は

とんどのコンクリート製品メーカーで製造可能な商品で、全国でネットワークを広げて普及を進めた」として今後、大学等と共同実験して得たデータを基に第三者機関からの性能認証を取得する計画。3年間で100社のライセンス供与を目指すうえで「興味がある会社は気軽に連絡して欲しい」と話している。

今月の論説

地震の時、愛する人を守るコンクリート塀を作りたい

週刊ブロック通信・論説委員 池永 征司
コンクリートライセンス機構

「先の調査によると、建築基準法全ての項目に適合しているブロック塀はわずか2.8%であり、特に基礎の構造においては約8割の塀が法令に適合していないことが判明している。よって、大分県においては全てのブロック塀に倒壊の危険性があるとして扱うことにする」
～大分県地震被害想定調査(H20年3月)
第7編ブロック塀被害の想定より引用

[人を守れないブロック塀] 2018年6月18日7時58分に発生した大阪府北部地震の規模はM6.1、最大震度6弱。高槻の寿永小学校で9歳の少女が地震によるブロック塀の倒壊で亡くなりました。地震のニュースを娘と一緒に見ていると、娘がいつにない真剣な顔をして話しかけてきました。「お父さん、地震の時ってコンクリート塀は危ないってホント？ 離れないといけないんだね。全部そうなの？」娘は9歳。寿永小学校で亡くなった少女と同じ年です。幼いながらに感じる場所があったのでしょうか。言葉の端と目の奥には「コンクリート屋なのになんで危ないのを放っているの？」そう言っているような気がしました。コンクリート業界に入って17年。これほど情けない思いをした事はありません。本来であればコンクリートは災害の時に人の命を守らねばなりません。ハリウッド映画の中に大きな災害のシーンがありました。「こんな時はコンクリートの近くに行くんだ！みんなで移動しろ！」と。本来の姿のように思えました。結局、娘には「地震の時とはとにかくコンクリートの塀からは離れなさい」そう言うしかありませんでした。丁度その頃、私は弟と共に独立し「(株)コンクリートライセンス機構」という会社を立ち上げたばかりでした。商品群の一部として「塀のねっこ」というブロック塀置き換えの商品開発を行っており、それも様々な情報を数カ月かけて一気に調べましたので皆様にお伝えしたいと思います。

[ブロック塀の被害予想] 各自治体におけるブロック塀の被害予想の多くは東京都が発表した平成9年のレポートを参考に想定しているようです。そこでは「ブロック塀」による被害予想が独立したジャンルとして扱われています。内閣府の中央防災会議の資料でも「建物の倒壊」「急傾斜地崩壊」「地震火災」「ブロック塀等」と4つの項目に分けて被害予想が示されており、ブロック塀問題の大きさを痛感します。

[ブロック塀の良さと課題] しかし、ブロック塀にはメリットもあります。日本建築学会は「宅地の狭小過密化に伴い敷地境界の確保と隣家・外部からの視線遮断」「防火・遮風・遮音・防犯」「強度・耐久性がある」「建設費が比較的安価」を挙げていますが、私は「施工が容易」「材料の入手が容易」「人力施工が可能」を追加したいと思います。

ブロック塀等による被害予想		最大死者数	最大負傷者数
内閣府 中央防災会議 H25	首都直下地震	500	
東京都 防災会議 H18	首都直下地震	614	7,415
東京都 防災会議 H24	首都直下地震	103	3,543

倒壊しないブロック塀の最低条件は、(1) 基準通りのRC基礎を有すること(2) 十分な基礎根入れがあること(3) 基礎底部からブロック塀の頂点まで鉄筋が一発で到達していること(4) 劣化していないこと—の4点で、コンクリートメーカーが関与できない現場の施工管理と維持が中心です。長年ブロック塀の研究に携わってこられた方に話を伺う機会がありました。「宮城県沖地震から40年経ったが、ブロック塀は進歩していない」との事でした。ブロックが優れた材料であるのは間違いありませんが、現場での組立が必須の半製品で、施工に関わる人の教育が不可欠です。しかし、素人でも積むことができるブロックの特性から見てそれは大変難しいでしょう。ホームセンターでも気軽に買うことができ、誰にでも扱えるのがブロックの良さでもあります。ブロック塀が抱えるもう一つの課題が寿命です。構造物には寿命がありますがブロック塀の寿命は一般のイメージと比べて意外に短いのです。福岡県の「ブロック塀を詳しく知ろう!」では、ブロック塀の耐用年数を10cm(厚)12年、12cm15年、15cm30年としています(大分大学が行った大分市内対象の調査では10cm厚が最も多い)。また法定耐用年数は15年で、木造住宅の法定耐用年数27年と比べて約半分の寿命しかなく、適切なメンテナンスがないと危険な構造物になります。たとえ施工がしっかりしていても、老朽化したブロック塀は危険な構造物になってしまうのです。

[行政の動き - 異素材への移行] 自治体では危険なブロック塀を撤去して、「生け垣」「金属フェンス」「板塀」にする動きが始まっています。これはコンクリート業界が今まで目指してきた「異素材からの転換」の逆バージョンで、コンクリート製品業界にとってはイメージ的にも売上面でもマイナスです。9月4日付福島民友新聞に「県産木材でフェンス設置へ ブロック塀対策、学校など県有施設」という記事がありました。今やコンクリートブロックから異素材への移行が行政の流れなのです。しかし、金属のフェンスは車がちょっと当たただけで曲がってしまいます。生け垣は手入れが大変ですし、板塀は腐ってしまいます。やはり塀にはしっかりとしたコンクリートがぴったりですね。家を建て替えても塀がそのままということは珍しくありません。と言うことは家よりも長持ちするようなモノです。私はコンクリートの持つ「頑丈」「長持ち」と言う特性を活かした「安心」「安全」なコンクリートの塀が求められているのではないかと強く思います。

「おおいた起業家事情」

平成 27 年に設置された「おおいたスタートアップセンター」
多くの方が、創業や新事業に取り組んでいます。
このコーナーは、おおいたスタートアップセンターが
注目する起業家や話題に迫ります。

今月の注目起業家は

コンクリート製品の開発・販売を行う

(株) コンクリートライセンス機構 代表取締役 池永征司さんです!

■兄弟で起業!

今回ご紹介する池永征司さん(44歳)は、平成30年6月、当センターに、弟で専務の池永智浩さん(39歳)と入居されました。池永さんが、専務と経営戦略を練られている姿は、他の入居者さんたちのもとより、センター職員にも良い刺激を与えてくれる、大変頼もしい存在です。兄弟経営が順風満帆である秘訣を聞くと、「一緒にいる時間が長いので話が早いこと」と教えてくれました。ケンカをすることはほとんどないそうで、むしろお互いを気遣う姿が印象的です。

アイデアマンで営業担当の社長と、技術開発担当の専務という役割分担がしっかりでき、お互いを補い合う絆の強さを感じます。入居して1年がたち、この間どのような変化が起こったのか教えていただきました。



センター内の大分オフィス
池永征司社長(左)と池永智浩専務(右)

工場製耐震コンクリート塀『塀のねっこ』の開発及び商品化を行いました。また、コンクリート塀関連の「製品間の接合」と「製品内の鉄筋構造」に関わる特許2件も取得。安心・安全なコンクリート塀『塀のねっこ』の普及がさらに加速しそうです。今後は、通学路や避難路はもとより、人が集まる場所や災害時でも操業しなければいけない事業所(電力・ガス・医療・官公庁など)に向けて、PRされるそうです。

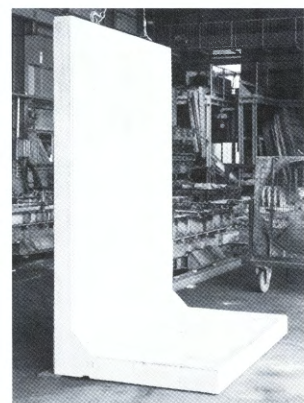


『塀のねっこ』関連の特許取得

さらに、ブロック塀の耐震診断が法的に義務化される中で、コンクリート塀の診断を行う『ブロック塀ドクター』もリリースしました。住宅やコンプライアンス(法令遵守)意識の高い企業にむけて、まずは診断を呼びかけています。

■今後の展望

公共事業を対象とする技術開発が得意なコンクリート業界の中で、民間に向けたコンクリート技術が少ないことに着目した池永さん。夢を聞くと、「日本全国から危険なブロック塀をなくしたい」といってシンプルな答えが返ってきました。2018年に起きた大阪府北部地震でのブロック塀の倒壊により、9歳の少女が亡くなったことをきっかけに、当時同じ年齢の娘さんを持つ父だった池永さんが『塀のねっこ』を考案しました。その夢が、一日でも早く叶うことを願わずにはられません。コンクリートの可能性とその先の未来を考え、チャレンジを続ける池永さんからは、さらなるアイデアも生まれそうです。



『塀のねっこ』製品写真

■湯けむりアクセラレーションプログラム(通称:YAP)に選出!

これまで各種のビジコンや展示会出展事業などにチャレンジしてきましたが、今年6月に2019 Y A P 事業*5社の中の1社に選ばれました。現在、メンタリングやマッチング支援を受けている最中です。11月14日に行われた、福岡グロースネクストでのグロースピッチにも登壇。普段商品紹介しにくい大企業などにコンタクトできるよい機会となりました。

*県内で意欲的に新たなチャレンジをしているベンチャー企業や中小企業を対象に、企業ニーズに沿った総合的なサポートを徹底的に行い、事業の成長を支援する事業

■新たな特許も取得! 更なる飛躍

昨年度、第1回おおいた中小企業活力創出基金助成金(商品開発支援事業)の採択を受け、地震時に倒壊等で社会問題化している危険なブロック塀に対し、震度6に対応した高品質の日本初・

株式会社コンクリートライセンス機構

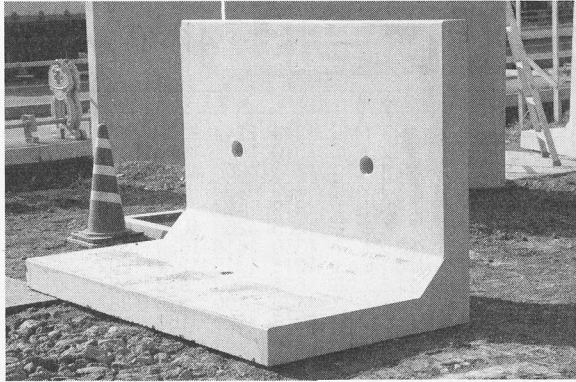
<東京本社> 〒105-0003 東京都港区西新橋2-4-3 プロス西新橋ビル6F
<大分オフィス> 〒870-0037 大分市東春日町17-20大分第2ソフィアプラザビル5階
Tel 050-5213-4570 / Fax 03-6740-6481 / mail: info@c-l.co.jp
HP: <https://concrete-license.com/>



第3種郵便物認可

ブロック塀、防災用に提案

コンクリート ライセンス機構 浸水被害にも対応



「L字型のコンクリートブロック塀「塀のねっこ」

【大分】コンクリートライセンス機構（大分市、池永征司社長、050・5213・4570）は、一体型コンクリートブロック塀の防災用途としての普及に乗り出した。金沢工業大学との共同実験で耐震性能を確認し、浸水被害にも対応できる商品として提案する。生産能力を増強し、メーカーとしての取り組みも加速する。

金沢工大の振動台を施設などでの利用を想った実験では、20定している。「塀のねっこ」と名付けたブロック塀は、L字型で構造体の中を一つの鉄筋ひび割れがないことを確認した。浸水対策として600ミリの長さがあり、安定した施工

を実現する。

これまででは、塀の製造、施工のノウハウをコンクリートメーカーへ提供するライセンス販売を主としていた。一方でニーズの高まりもあり、自社での製品販売も増えつつある。

昨秋にはブロックを製造する型枠3機を熊本県内の協力メーカーの工場に設置。「パートナー企業との協力も得て、年内には10機体制にしたい」（池永社長）考え。池永社長は「大分県の実験で性能が証明できた。今後は製品とライセンスの販売を進めるとともに、第三者機関からの性能認証を得られるように準備を進める」としている。

